

街道の駅 赤馬館

「街道の駅 赤馬館」は、唐津街道の宿場町だった赤間宿に位置しています。唐津街道は、江戸時代（1603～1867 年）の間、福岡を通る主要路の 1 つでした。赤馬館周辺の地域には、主として 19 世紀～20 世紀初頭のさまざまな様式の店舗や町屋があります。この現代的な観光案内所は、江戸時代の商家を模して建設されました。その建材は、伝統的な様式の建物から再利用したものです。

「街道の駅 赤馬館」には地元の有志がおり、英語を話せる人もいます。訪問者は、着物を来て茶道を体験することができます。赤馬館には、あらゆるサイズの男女の着物が揃っています。着物を着て古い町並みを散策することもできます。これらについては、3 日前までに予約する必要があります。

赤馬館には、この地域の地図、宗像地域の歴史と見どころに関するパンフレット、レンタサイクルおよび無料の Wi-Fi が用意されています。地元の工芸品やせんべい・醤油などの特産品を販売するお店とカフェもあります。中庭には、赤間宿に残る 2 つの井戸の 1 つがあります。江戸時代の間、この地域には 7 つの井戸があり、地下水を汲み上げていました。もう 1 つの井戸は、赤馬館の隣の勝屋酒造にあります。勝屋酒造は、この井戸水を使っており、宗像大社の神事に酒を提供しています。

江戸時代、唐津街道は、佐賀の唐津と北九州をつなぐ主要路でした。赤間宿は、この地域にある 21 の宿場町の 1 つでした。旅人は、ここで宿を見つけ、食事をし、買い物をすることができました。